

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽) / 森 正

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

音楽教育コースにおいて高度専門職業人としての教員を育てるためには、専門とする分野における高度な知識、技量が必要であり、また勤務する学校において、音楽の分野に関してリーダーとなれる教員を養成することが大切であると考え。その為には以下の点を配慮して授業を進める。

- ①授業内容としては、教師として授業を行うに必要な知識と技量だけでなく、その周辺に関する内容まで幅広く取り扱う。特にピアノの演奏実技に関しては、歌唱教材の伴奏等に限らず、幅広い時代、様式の作品を演奏する機会を与える。
- ②授業方法としては、とかく指示待ちになりがちな学生に対し、課題に対する研究方法や練習方法を自らが探し出せるよう工夫し、卒業後も自らが課題に取り組めるようにする。
- ③また評価においては、学習内容そのものの評価に含め、学生が自らどのようにその課題に取り組んでいったのか、その姿勢も積極的に評価する。

#### 2. 点検・評価

年度目標に掲げた3つの内容を実現するための具体的な方法として、とかく授業中に受け身になりがちな学生に対し、自分や他の受講生のピアノの演奏についてコメントさせる「ことば化」を積極程に取り入れた。このことにより、実地教育等での小・中学生の合唱や器楽の演奏に対し、適切にアドバイスできる能力が向上すると考え、実際に自分や他の受講生の演奏に対して発言を繰り返したりレポートを提出することで、学生の「ことば化」する能力は向上した。この演奏を「ことば化」して説明する能力を育成する取り組みについては、北海道教育大学で行なわれる日本教育大学協会全国音楽部門大学部会全国大会のピアノ部会について報告する。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

3年生3名、4年生5名の卒業研究を指導する学部生については、コースの主催する学内演奏会に出演させるなど、卒業研究に向けた準備を円滑に進めさせると同時に、教員採用試験や大学院受験を含め、卒業後の進路に関して積極的な指導を行う。

課題研究を受け持つ5名の大学院生については、教員採用試験を受験することを希望する場合は、その試験に向けての準備状況等の把握に努め、適宜必要なアドバイスができるようにする。

また初等音楽1では、特に長期履修の大学院生に対して教職キャリア支援センターのピアノ実技指導との連携に関して検討し、可能な限り有効となる指導が出来る体制を考える。

#### 2. 点検・評価

3年生3名、4年生5名の卒業研究を指導する学部生については、コースの主催する学内演奏会に出演させるなど、卒業研究に向けた準備を円滑に進めさせると同時に、教員採用試験や一般企業への就職、大学院受験を含め、卒業後の進路に関して積極的な指導を行なった。その結果、徳島信用金庫の採用試験に1名、兵庫教育大学の大学院に1名合格した。また、3年生の1名は日本ピアノ教育連盟のオーディションに参加し、奨励賞を受賞した。

課題研究を受け持つ5名の大学院生については、教員採用試験を受験することを希望する場合は、その試験に向けての準備状況等の把握に努め、適宜必要なアドバイスを行なった。また大学院生のうち、2名は日本ピアノ教育連盟のオーディションに参加し、奨励賞を受賞した。

初等音楽1では、特に長期履修の大学院生に対して教職キャリア支援センターのピアノ実技指導との連携に関して検討し、可能な限り有効となる指導が出来る体制を考え、学生にはその支援センターのピアノ実技指導を受講するよう周知した。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

1. 小林荃子元教授と、ベートーヴェンおよびラヴェルの作品を中心に、室内楽の演奏方法に関する共同研究を行い、その成果を10月に大阪で行う演奏会で発表する。

2. バッハ、シューベルト、ドビュッシーのピアノ独奏作品の演奏方法に関する研究を行い、徳島と東京で行うリサイタルでその成果を発表する。

3. 三國正樹群馬大学教授と2台のピアノのための作品に関する共同研究を行い、その成果を来年度東京において発表する。

4. ピアノを演奏する際の「暗譜」という行為について考察し、学生の指導に反映させる。

#### 2. 点検・評価

1. 小林荃子元教授と、ベートーヴェンおよびラヴェルの作品による室内楽の演奏方法に関する共同研究を行い、その成果は10月20日に大阪のイシハラホールで行なわれる演奏会で発表した。

2. バッハ、シューベルト、ドビュッシーのピアノ作品に関する研究を行い、その成果は本年6月の東京で行なわれる演奏会で発表する予定である。特にバッハとシューベルトの作品については、ドイツ、デットモルト音楽大学、Prof.F.W.Schnurrのもとで昨年9月に研鑽を積んだ。

3. 三國正樹群馬大学教授と、フランス人の作曲家による2台のピアノのための作品に関する共同研究を行い、その成果を本年5月に東京で行なわれる演奏会で発表する。

4. 「暗譜」という行為について考察し、その成果は本年3月に発行された鳴門教育大学研究紀要で発表した。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

2013年度の大学院への新入生について、自分が指導教員になる学生が4名いるが、その内の3名の出身大学は自分がこれまで指導したことのない、初めての大学からの進学者である。このようなケースにおいて、今後の本学大学院への進学に結び付くよう、これらの大学の教員との連絡をとるよう努めたい。また、すでに2014年度大学院入試について、ピアノの実技に関する問い合わせをいただいた大学が複数あるが、これらについても連絡をとり本学の受験を学生に勧めていただけるようする。

大学全体の運営に関する仕事として、2012年度からの「機関別認証評価」及び「カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会」の仕事が続くことになる。どちらも対外的に重要な意味を持つ仕事であるので、確実にその職務を遂行できるようにする。

### 2. 点検・評価

大学院入試について、山口大学、都留文化大学、同志社女子大学のピアノ担当の教員と連絡をとり、受験生を確保した。今後もこのような繋がりを大切にしたいと考えている。

また「機関別認証評価」及び「カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会」の業務に関しても取り組んだ。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

社会においては財団法人日本ピアノ教育連盟や、財団法人三重県文化振興事業団の主催するコンクールやオーディション等の活動を通して、小・中・高校生のピアノ演奏に関する技術を向上させ、適切な音楽文化の発展に寄与する。

### 2. 点検・評価

社会においては財団法人日本ピアノ教育連盟や、財団法人三重県文化振興事業団の主催するコンクールやオーディション等の活動を通して、小・中・高校生のピアノ演奏に関する技術を向上させ、適切な音楽文化の発展に寄与した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)